

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 15	公益目的事業 19
主査名	林 克彦 流通経済大学教授	
研究テーマ	消費者行動の変化がネット通販物流に及ぼす影響に関する研究	
研究の目的： コロナ禍で、消費者は実店舗での買い物を控えネット通販の利用を拡大するなど、購買行動が大きく変化した。EC 化率が高まり、宅配便の取扱量が急増、ネット通販事業者自身による自家物流体制の構築が進んだ。本研究では、諸統計や文献を収集・分析するとともにインタビュー調査やウェブアンケート調査により、コロナ禍の消費者行動の変化や宅配便・ネット通販物流への影響を分析する。		
研究の経過（4月～3月）： 以下のとおり、研究会6回とインタビュー調査、ウェブアンケート調査を実施した。 ① 第1回オンライン併用研究会（7月4日）：「東京・福岡間の宅配便貨物輸送の比較」（根本）、「日中間の配送荷物受渡に関する現状整理」（宮武）、「コロナ禍における消費者行動の変化」（林） ② 第2回オンライン併用研究会（8月2日）：三井物産ロジスティクス部署担当者「越境ネット通販物流の通関に係る課題」。越境ネット通販の輸入量急増とSP（Small Package）激増、ACP（税関事務管理人）、IOR（登録輸入者）を通じた通関実態と課題等を討議。 ③ 現地調査（8月22日）：越境ネット通販物流企業（横浜市）に赴き、通関業務、ACPとIORの仕組み等を調査。 ④ 第3回オンライン併用研究会（8月29日）：「インタビュー調査結果」（宮武）、「急増する輸入貨物への関税局の対応」（根本）、「物流業界の直面する課題」（齊藤）、「アマゾンのグローバルサプライチェーン」（林） ⑤ 第4回オンライン併用研究会（11月4日）：「米国の大型トラック輸送の現状」（根本）、「SA・PAにおける混雑状況の変化及び要因」（根本）、「中国における輸出CBEC物流サービス」（林） ⑥ 第5回オンライン併用研究会（2月3日）：「定温ボックス混載輸送実証実験」（橋本）、「欧州インターモーダル物流拠点デュイスブルク港の課題」（根本）、「物流構造改革による担い手にやさしい物流の実現」（根本）、「ECにおける包装の役割と最適化を考える」（宮武）、「中国における輸出CBECの振興施策」（林） ⑦ 第6回オンライン併用研究会（3月16日）：「関税制度改正の概要」（根本）、「越境ネット通販の増大と通関制度の課題－中国発日本向け貨物を事例として－」（宮武） ⑧ ウェブアンケート：消費者600名に対しネット通販利用、受取方法、置き配利用状況等を調査。		
研究の成果（自己評価含む）： 研究会、インタビュー調査、アンケート調査により、コロナ禍からウイズコロナに向けた時期における消費行動の急激な変化、およびネット通販事業者と宅配便事業者による柔軟な物流体制の構築について把握することができた。		
今後の課題： 労働力不足が深刻化するなか、現在も拡大が続くネット通販物流が今後も優れたサービス水準を維持できるか持続可能性の視点から検証することが課題となっている。		